

昔話「狐女房」を考える

—口承が受容するものとしないもの—

中 村 とも子

名前はないのである。

昔話「狐女房」が非常に文芸化された話であることは、しばしば指摘されるところである。「子別れ」の名場面に盛り込められた悲哀感は日本人の情緒や美意識に合致したのだろう、狐女房譚は古くから小説・語り物・芝居などのさまざまな作品の題材として取り上げられてきた。昔話「狐女房」^(註①)はこれらの影響を強く受けている、という見解が定説となっている。確かに、現在の口承資料を見渡すと、狐女房は「葛の葉」、夫は「保名」、子どもは「童子丸」という有名な詞を持つことが多く、狐女房は別際際に《恋しくば訪ね来てみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉》という有名な歌を残す。

登場者に名前がつくことだけを取り上げても、他の異類女房譚とは異なる印象を受ける。試みに「蛇女房一目の玉型」を思い浮かべてみると。狐女房と同じく、正体の露見した蛇女房が夫と子どもを残して去る話である。だが、蛇女房、その夫、その子どもの名前がすぐに浮かんでくるであろうか。各地の類話では「蛇女房」の登場者たちも名前を持つ場合もあるが、「狐女房」のように一般的になつた

要素をいつのか。それだけではなく、話の筋立てに及ぶ影響もあるのだろうか。逆に、「狐女房」に口承の本来的な姿はあるのだろうか。このような見地から昔話「狐女房」を見直したい。方法として口承資料と五つのモデル作品を比較する。比較の基準としては、要素・ツーク・モティーフ・エピソードの概念を応用する。これらの概念は、基本的には小澤俊夫が『日本昔話通観』で定義した内容に従う。すなわち、登場人物の主たる行為をツークとし、ツークとツークの対応をモティーフとし、モティーフのある程度のまとまりをエピソードとする。また要素とは、個々の小道具や抽象的事がらなどである。^(註②)

表1に狐女房譚を題材に取り上げた文芸作品の一覧を掲げた。他にも、様々な作品があろうが、ここに掲げたものが、多くの先行研究者によつて指摘されているものである。その中から五つをモデルとして選んだ。表2に、『三国相伝簠簋金鳥玉兔集之由来』（以下『由来』と略称）、『安倍晴明物語一代記』（以下『物語』）、『古淨瑠璃 信太妻』（以下『信太妻』）、『芦屋道満大内鑑』

(以下「大内鑑」)、『連夜説教／安部保名』(以下「連夜説教」)、の五作品の内容を示した。この五作品に限った理由は、昔話「狐女房」と共通するエピソードやモティーフ、要素がおおむね網羅されていること、また先行研究者により、狐女房譚の文芸的系譜をたどる上で重要だと指摘されていることによる。

二、昔話「狐女房」の主要な要素・モティーフの検討

今回扱つた昔話資料の総数は二五三話で、表3に示したように、これらを内容別に三つに大別した。先にあげた五作品と共通するエピソード・モティーフ・要素のある話は一九九話あり、これを仮に類型タイプと呼ぶ。五作品と共通性のない話は一八話で、これを仮に非類型タイプと呼ぶ。また、田植型として独立する話は三六話である。

類型タイプをエピソードの配列で整理すると、三つのグループに分けることができる。表4に示したように、A型・B型・C型の三つである。A型・B型ともに、話の主眼は、狐が女に変身して男と結婚し、正体が露見して去ることにあり、ここまででは他の異類嫁の話型と同じ構成をたどる。C型はそこから先の展開部を持つ。つまり、再会した狐の母から、または、龍宮から、呪宝をもつた子どもがその力で試練を乗り越えていくという冒險物語に発展する。C型はいわば、人間と動物の間に誕生した子どもの人生を豊かに語る話であり、この点は他の異類嫁の話型にはあまり見られない独自性がある。

だといえる。

表4の下段に類型タイプの分布数を掲げた。A・B・Cの三つの型を割合で示すと、A型は四三%を占め、数的にはもともと伝承の厚いタイプだといえる。B型は三七%，C型は二〇%という結果になつた。五作品と共通するエピソードやモティーフは、後半部に子どもの冒險物語を持つC型にもつとも多く表れるが、数の集計からいえること、つまり、C型の占める割合が少ないということは、昔話「狐女房」が文芸からモティーフやエピソードの配列まで整えた形で受容することは少ないということである。

では、昔話「狐女房」は諸作品から具体的に何を受容しているか、または作品と関連のない要素やモティーフはなにかという点について検討する。表5-1に、類型タイプ・田植型・非類型タイプのそれぞれの主要な要素等を比較した。その項目に沿つて述べる。

1 固有名詞

登場者の固有名詞を比較すると、アベヤスナ・クズノハ・ドウジマルなど文芸作品と共通する名前は類型タイプに定着していることがわかる(「」内に示した名前は転化の起きている場合である。田植型と非類型タイプは、語られた名前を全て示した)。類型タイプの中では、名前が登場者につく割合は、A・B・Cの順に多くなっている。いいかえれば類型タイプの中でも、A・Bの型では人物に名前がつかない方が多いということである。C型のみアベヤスナとドウジマルに六割以上の定着率を見せ、クズノハ・ドウマンが三割近い。田植型は人物に名前のつかない場合の方が多く、まと

また数量で示せるような名前の定着はない。類型タイプではヤスナ・クズノハ・ドウジマルの三つに定着性があるとはいえ、いろいろな転化が起きている。

例えば、類型タイプC型のアベヤスナの項目を見ると、ヤスマ・ヤスカタ・ヤスナリなどの名前が表れる。これらはヤスナが単純に転化した例ととらえられる。しかし、次のようないい例はどうだろう。

類型タイプA型ドウジマルの項目にあるクズノハ、類型タイプB型クズノハの項目にあるアビノセメドノなどの例は、単純な転化ではなく、登場者の役割を無視した変化だといえる。クズノハという名前が狐女房のみに使われるのではなく、生まれた子に使われたり、狐女房にアビノセメドという名前を付していることは、口頭伝承の性格をよく表している。本来は、固有名詞に執着しない昔話が、狐女房譚のように文芸やその他の作品と密接な関連を持たれた時、印象の強い固有名詞は伝承に残る。だが、時間の経過に従い、その有名詞の持つ役割は薄れ、音のみが口伝えに残る。

作品に表れる固有名詞の役割が昔話に必要とされることは、次の事実からも推測できる。印象的な固有名詞の中から音の近似した名前を当てはめてしまふ例がある。B型ドウジマルの項目のアベサダトウ、同じくB型イシカワアクエモンの項目のイシカワゴエモンなどがその例である。これらの人々が狐女房譚と関わらないのに伝承されているのは、右に述べたように、昔話が有名詞の本質的な意味には執着しない性質があるからであろう。

ところで、類型タイプB型ドウジマルの項目中に、シグレ、ムラ

サキという名前が見られる。また田植型と非類型タイプの中にも、キンジ・ムラサ・シグレ・ムラサキなど似た名前が見られる。このように、ドウジマル系統ではない名前が類型タイプにも表れるといふことは、ドウジマルという文芸的な要素がかぶさつてくる前に、シグレ・ムラサキなどの名前が伝承されていたと推測できる。

2 主人公の身分職業

ヤスナの人物設定について、五作品に表れる武家社会に関連のある設定や、その影響だとと思われる設定を文芸的なものとし、普通に昔話の登場者として語られる設定を昔話的なものとしてわけた。類型タイプでは、A型は昔話的な設定が文芸的な設定より多い。B型はほぼ拮抗し、C型は六割近い話に文芸的な設定が表れる。しかし、C型でも、二割の話に昔話的設定が語られている。固有名詞ヤスナの定着率と職業身分設定の数字を重ねてみると、次のようにいえよう。すなわち、獣師・百姓・炭焼きといった昔話の主人公たちが、ヤスナという名前を持つ場合、それは、単に符号に過ぎず、五作品のヤスナの実体とは掛け離れた存在になる。このように、昔話が要素を受容しても、その要素に付随する文芸の中の主人公の実体まで受け入れるとは限らないといえる。

3 婚姻の理由

狐女房の婚姻の理由を「報恩」と「来訪」にわけて考える。「来訪」は、いわば明確な理由がない場合、例えば、狐が女に化けて突然やって来たり、男が嫁が欲しいと思っているとその思いに応答して女がやって来るなどの場合で、他の異類女房譚にもよく表れるモ

ティーフである。類型タイプA・B・Cの三つでは、「報恩」が「来訪」を上回っているが、田植型・非類型タイプでは「来訪」の方が「報恩」を上回っている。

田植型と非類型タイプのうち、「目前の二人女房」とは、芝居での「二人女房」と区別するために仮に名づけたタイプである。男が少しの間自分の女房のそばを離れ戻ると前に二人の女房があり、どちらが本当の女房かと困惑する。あやしいと思った女を追い出したり殺したりするが、それが本物の女房で、もう一人の女は狐が化けていたとわかる。このタイプは『今昔物語』にも見える（卷第二十七／狐変人妻形来家語第三十九）。

「目前の二人女房」が『今昔物語』にあることは、このモティーフが古い形であることを示している。このモティーフでの狐女房は妖怪的で人に害を与えるが、田植型の場合、同じモティーフ構成をとっても、^(注1) 狐女房は豊作をもたらす福神として語られる。狐の性格は異なるが、「来訪」という出現のモティーフは同じである。このようない理由の定かでない「来訪」という出現のモティーフが残っているということは、類型タイプより田植型の方に古い伝承の姿が残されていると推測できる。さらに、類型タイプのA・B型の中にも「来訪」モティーフが三割程度あることは、狐女房譚には文芸との関わりのない「来訪」モティーフが本來的に伝承されていたと推測できよう。

ところで五作品のうち、表2に示したように比較的古い時代の成立である『由来』と『物語』の設定が「来訪」となっており、昔話

の来訪モティーフは、この二つの作品の影響があると見ることもできる。しかし、文芸的な影響の少ない田植型が圧倒的に「来訪」をとること、また、「目前の二人女房」モティーフのある田植型の方が、伝承の狐女房譚の「来訪」モティーフを取り込んだと理解したほうが自然であろう。

4 狩の理由

「報恩」の場合、昔話には様々な状況が語られるが、その中でも、「狐が狩から救われる」というモティーフに注目する。モデル五作品の「報恩」モティーフは、いずれも狐が狩から救助されることを前提としている。昔話での狩の設定は五作品の設定とどのように関連しているかを述べる。「狐を狩から救助する」というモティーフ自体は、文芸の影響から派生したと見てよい。「狩」以外のモティーフでは、狐は「わなにはまる・子どもに捕まる・けがをする・空腹で動けない」などの状況から救われる。これらの状況は他の異類女房譚にもしばしば語られる。一方、他の異類女房譚には「狩」の設定は一般的ではない。従って、狐女房譚に顕著な「狩」の設定は文芸的な諸作品からの影響であろうと考えられる。

ところで、五作品のうち、『信太妻』『大内鑑』では、狩の理由は、「狐の生き肝・生き血が必要」なことによる。「連夜説教」では武士が楽しみとして行う狩である。これらの理由と一致する昔話はごく少ない。むしろ、昔話の狩は、獵師の生計のため、または害を偽す狐を退治するため、という理由の方がが多いことがわかる。こ

のことから、狐を狩から救うというモティーフが文芸的な設定の影響を受けているのは確かであるが、狩の背景は文芸的な側面を離れ、昔話の登場者の暮す社会にふさわしいものに変化する傾向があるといえる。2の項目で、主人公の職業身分の設定に武家社会とは関係ない存在を指摘した。すなわち、獵師や百姓という設定の主人公たちである。彼らが狩から狐を助けるという場合に、彼らの社会背景にふさわしい獵や退治という理由に変化するといえよう。

5 子ども

五作品では、いずれもヤスナとクズノハの間に童子という男子一人が誕生する。昔話では、類型タイプC型は男子一人子に定着しているが、A・B型では、性別を語らない単なる子どもという場合が多い。もちろん、文脈から判断して性別を言わなくても男子だと推測できる話も多々ある。しかし、昔話「狐女房」には、本来は子どもの性別は重要な要素ではなかったのではないか。田植型では、男子一人の場合三割で、複数のきょうだいや子どもが生まれない場合は七割である。非類型タイプでは、半数の話で子どもの存在は語られていない。文芸作品と関わりが強い類型タイプの中でも、A型B型にあるように、複数のきょうだいとする場合、女子とする場合、さらに子どもは生まれないという場合を合計すると、男子一人以外の設定は三割に達する。他の異類女房譚でも、男子一人子を絶対条件とする話型は少ない。男子一人子に定着している類型タイプC型は、狐女房譚全体の二割である。残りの八割の口承話に、子どもに関する様々なバリエーションがあることから、「狐女房」の本來の

な語り方に「男子一人子」という要素は必要絶対条件ではなかつたと推測できよう。

6 子どもの成長後

類型タイプに、セイメイのイメージを彷彿とさせる要素が見られる。「易者・八卦見・天文学者」などである。これらの要素は田植型と非類型タイプには表れない。

ところで、セイメイ伝承に極めて近接する類型タイプC型の比率を見ると、セイメイのイメージの強い要素と、「金持ち」「出世」という要素がそれぞれ同率であることは興味深い。C型はA・B型に比べると、後半部で子どもの試練と克服を物語るタイプである。M・リュディのいう「上向きの履歴書」にあたる展開をもつC型は、セイメイのイメージより、むしろ日本の昔話に普通に表れる成功（金持ち・出世）をとる傾向が強くなっている。ということは、C型は物語の筋立てに関わるエピソードの配列やモティーフ構成を、諸作品から受容してはいるが、テーマはセイメイの偉大な人生を語ることから離れていくといえる。

7 正体露見の契機

狐女房の正体露見の契機では、異類女房譚に一般的な、タブーとその侵犯のモティーフが非常に薄いことが特徴である。狐女房が「油断して尾を出す」という場合がもっとも多く、ほかには「足跡が狐である・耳に毛が生えている」などで女房の正体がわかる。このような狐女房自身の油断や動物性から正体が露見するというモティーフは、諸作品の哀感に満ちた狐女房の姿とはまったく違うイ

メージを造形している。

五作品では、『由来』『物語』の狐女房は理由なく忽然と姿を消す。『信太妻』は機織り中に庭の菊にみとれ、物思いにふけるうち

狐顔を露呈する。『大内鑑』と『連夜説教』は、婚約者が訪ねてきた。

狐女房の正体が露見するという、いわゆる二人女房モティーフである。昔話における正体露見の契機は、数の割合では、文芸的な影響は比較的薄いといえる。類型タイプに二人女房のモティーフが一割強から三割弱表れる。五作品では、ヤスナは実際には独身であり、クズノハとは婚約中である。そこに狐がクズノハに化けてやつてくる。昔話では、人間クズノハを婚約者とするより、ヤスナに本妻がおり、何らかの都合で別居しているという設定をとることが多い。また、芝居などでは人間クズノハ（昔話でいえば本妻）は、狐クズノハと同じく、いきいきと血の通った存在として登場する。だが、昔話での本妻は話の筋の上にほとんど姿を現さず、実体が語られることがないといってよい。ここでは、芝居などの影響で二人女房のモティーフは投影されているが、複雑な人間関係をできるだけ簡略化しようとする口承の傾向が伺える。

告知とは、「報恩が済んだ・別れる時がきた」などと、狐女房が自ら正体を告げるモティーフである。告知モティーフは田植型にも見られる。このような行動を見せる狐女房は、文艺作品の世話女房とはまた異なる、超然とした姿である。

三、韻律のある文言と視覚的な場面の受容

8 残す歌・文言

狐女房の残す歌『恋しくば訪ね来てみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉』の定着率を見ると、類型タイプに高い割合を示すのは当然としても、葛の葉狐とは関連の薄い田植型においても、この歌が伝承されていることに注目したい。狐女房譚の象徴ともいえる。

この歌が、葛の葉狐の物語とともに、人々にいかに受け入れられたかの証であろう。そのことには後に述べるように、芝居からの影響が大きいにあると思われる。『恋しくば』の歌以外には、田植型に『穂に出ないでつっぱらみ』という狐女房の豊作を招く呪文、また非類型タイプの女化稻荷伝説にまつわる歌、『みどり子の母はと問わば文化の原に泣く泣く伏すと答えよ』、また、類型タイプC型の聞耳エピソードに『たちまち去るべき災難を知らざるものこそ不憫なれ』の歌が登場する。田植型の呪文的文言はおそらく、本来的な伝承であったのだろう。しかし、類型タイプに表れた他の和歌形式の歌は、作歌技術が必要なので、口頭伝承に始めから備わっていたとは考えにくい。

歌の形式は踏まないが、狐女房が別れに際して、子どもに告げる戒めの文言も語り物に近い形で語られる場合がある。例えば、秋田の例話では、『童子丸、私の言うことよく聞けよ、蝶々やとんぼや虫けらを必ず食べるなよ、もしそなたが食べるなら、あれ見よ狐の

子じやものと、世間の人に笑われる」と語られる。芝居やごぜ歌の文言と比較すると、両者の近似性がはつきりする。「何をさせても壇のあかぬ奴じや道理よ 狐の子じやものと 人に笑われそしられて 母が名までも呼び出すようになりやんなや（中略）成人の後までも 小鳥一ツ虫一ツ無益の殺生ばしすなよ」（『大内鑑』）。 「でんでんだいこもねだるなよ 蝶々とんぼもころすなよ（中略）行燈障子もなめきるな 何をいうてもわかりやせん 道理ぞ狐の子じやものと 人に笑われそしられて 母が名前を呼び出すな」（ごぜ歌／祭文松坂 葛の葉）。

『恋しくば』の歌はA・B・Cのいずれの型でも五割前後伝承されているし、葛の葉狐とは直接関わりのない田植型にも一割ほど表れている。『とんぼや蝶々を食するな』の戒めの文言はA・B・Cの三つの型で二割強から一割ほど語られている。数の問題だけではなく、語られる言葉も右に実例を示したように、きわめて近い内容である。秋田の例のように、台詞もどきになつた語りは、昔話「狐女房」に決して珍しいことではない。韻律のある文言がこれほど定着している理由は、耳で聞く芸能にとって、リズムのある文言は非常に記憶されやすく、聞いていて心地よく、また、口語りに乗せやすいからだと思われる。

ところで、類型タイプの中には、狐女房は別れの歌を障子に書くという例が、二割近くから三割表れる。また、口に筆をくわえて書くこと、具体的に語る例も結構見られる。このような描写の具体性は口頭伝承本来のものではなく、芝居からの視覚的な記憶が口頭伝承

に投影されたのではないかと考えられる。例えば、山形の例では次のように語られる。「なんぼ幼いでもおれの言うことを忘れないよっていいながら 右の手で『恋しくば』と書いたもんだぞ そして左手さ持ち直して、訪ね来てみよ泉なると書いたどお そうしててるうちに童子丸泣くもんだから、抱いて乳くわえらせでだまかして、こんど口に筆くわえて、口で書いたもんだじもの」。

芝居での子別れの段の上演では、狐女房が障子に和歌の文字を書き所作、いわゆる曲書きが見せ場になつてている。三世中村梅玉の芸談に、次のようなくだりがある。

—『恋』を普通に右手で書き、次の『しきは』は下から書きあげて、『はくし』と書く。続いて『尋ね来てみよ』までを右手で普通に書きます。ここで童子の子役が目を覚まして『母様いのう』とそばへ走つてくるので、それを自分の左側に抱くように立たせて『いざみなる』を右手で逆さに左文字で書きます。— 山形の話の場面は、このような芝居の所作を目の当たりにしているかのような語り方である。ここまで写実的ではないが、障子に書く・口にくわえて書く、という語り方が昔話にかなりあることの理由の一つには、目で見た芝居の所作が口頭伝承の中の場面を具体的にした、いいかえれば視覚による記憶が、聴覚による伝承に影響を及ぼしたと考えることができる。

四、エピソード・モティーフの受容と昔話独自の展開

昔話「狐女房」の中で、芝居や語り物と密接な関係があるのは類型タイプであることは今まで述べてきたことによつて明らかである。

しかし、このタイプがエピソードやモティーフを受容しても物語をそのまま受け入れるとは限らない。さらに、受容したエピソードやモティーフを口承の独自性に従つて変容させている面も見られる。類型タイプと五作品のエピソードやモティーフを比較し、その受容と変容を検討する。

昔話「狐女房」と関連する五作品のエピソードは、表2-1から2-4の左端の項目に示したように、「仲磨のエピソード」「吉備大臣のエピソード」「ヤスナのエピソード／狐女房エピソード」「龍宮訪問エピソード」「聞耳エピソード」「術較エピソード」「セイメイの修行エピソード」「道満と妻の裏切りエピソード」「セイメイの死と蘇生エピソード」と整理することが可能である。

「仲磨のエピソード」「吉備大臣のエピソード」は仲磨と吉備公が受ける試練とその克服を語る。これは『由来』『物語』『連夜説教』の三作に表れ、数百年間の時間的流れと天竺・唐・日本の三国に渡る空間的に広いスケール設定となつてゐる。『信太妻』『大内鑑』の二作では、舞台は日本国内であり、時間的流れも比較的短い。秘伝書がセイメイの権威を裏づけるための重要な要素である作品ではその相伝を詳しく語るので、時間的にも空間的にも大きな設定をとる。だが、秘伝書が単なる小道具になり、物語の中で実体を持たない場合は相伝を大きく語ることではなく、それに伴つて、時間的空間的な設定も縮小される。昔話にはセイメイの権威の象徴である秘

伝書は重要な要素ではなく、従つてその相伝を物語るこの二つのエピソードも語られない。

「ヤスナのエピソード／狐女房エピソード」は、昔話「狐女房」ともつとも密接に関わるエピソードである。ヤスナと狐女房の出会いの契機が、救助と報恩のモティーフをとるのは『信太妻』『大内鑑』『連夜説教』の三作である。『由来』と『物語』では、ヤスナのもとに突然美女が来訪する。このように、古い時代の作品では狐女房の「來訪」というモティーフをとり、その後の作品では「報恩」のモティーフをとる。先述したように、このことは昔話にもあつてはまる。

ここで、昔話が、受容したモティーフを変容させた例を示す。
3 ヤスナのエピソード／①狐を匿ったヤスナが被る試練（表5-2）

『信太妻』では、狐を匿ったヤスナはつね平と切り合ひ、捕らわれたところを、らいばん和尚に化けた狐が救助するとなる。昔話のB型・C型には和尚などに化けた狐がヤスナを助けるというモティーフをもつて例話がある。例えば、B型の20山形・8の例話では、ヤスナは狐をめぐつてつね平と争つて捕まり、そこへ狐の化けたらいばん和尚が現れてヤスナを救うと語られる。この話には、文芸作品からの情景がほぼそのまま取り入れられている。つまり、要素のレベルまで『信太妻』と一致する話である。ところが＊をつけた例に注目すると、ヤスナの役割の人物は百姓や獵師の設定になつてゐる。例えば、B型25福島4番の話では、アベといふ男が狩人に

追われた狐を匿い、狐をめぐつて狩人と言い争うと語られる。この狩人はその後、話の展開に関わらない存在である。にもかかわらず、発端部でこのように語られるのは、『信太妻』のモティーフの投影があるからであろう。しかし、ヤスナとつね平の対立はアベと狩人の対立に変容している。アベは『信太妻』のヤスナとは異なり、百姓である。登場人物の設定が昔話世界に一般的なことがらに変容すると、敵対する人物像も登場者の背景にふさわしい変化をみせ

2) 3ヤスナのエピソード／②狐女房とヤナス父子の別れ（表5—

夫婦親子の別れという叙情性に満ちた情景を、昔話はどうのように受容し、変容しているだろうか。左側に『信太妻』『大内鑑』「連夜説教」の場面を示した。いずれも、狐女房が人間の慕情を断ち切るために、自らの意志で狐の姿を見せるという設定で共通する。昔話では「誤別の通告—わざと狐に変身する」という項目が作品の情景と一致した場合である。この場面を語る割合はA型三%、B型一七%、C型一四%という結果で、この場面を語ること 자체はあまり多くない。話の展開から見ても、すでに狐女房の正体は露見しているのに、信太森を訪問した父子にあらためて狐に変身して見せるのは重複感がある。口承におけるこの場面も、芝居や語り物の悲哀感を盛り上げていく設定の投影であろう。具体的な語り口を見ると、叙情性にも、ある種の省略が起きていることがわかる。A型22新潟5の例話では、狐女房の言葉に悲哀感はなく、「帰る」と言つて白

狐の姿を見せると、子があきらめるというように、具体的な行為のみが語られている。B型3秋田1の「童子丸があまりに泣く」、B型6島根1の「子供が喜んで母親にすがつて離れない→それを無理やりに離す」、C型17山形1の「狐は泣き寝むりしたのでヤスナの呼び声になかなか気がつかなかつた」などの語り方には、芝居や語り物からの叙情性をある程度受容していることが伺われる。

試みに、『信太妻』の別れの場面を次に示す。

(信太森を訪ねた保名父子、狐女房がなかなか現れないのに)童子、待ちわび、「のう父上様、かく恐ろしき所に、いつまでまします。母上様に、会わせんと、のたましが、偽りにて候な。ああさて、母上様のう母上」と、呼ばわる声に、さしもの、保名、いとど心も、消え消えと、前後不覚になりにけり。(絶望した保名は、童子と共に自害して浮き世の絆を逃れようとしたところに狐女房が現れる。)童子、これを見て、「のう母上様」と、言いもあえず、抱きつけば、母とともに、抱き上げ、「(なにしにきた)またまた浮き世の、妾執に、引かることの、悲しや」と、すがりついて、泣くばかり。(人間界に戻れないわけを狐女房が語り、形見に龍宮の秘符を童子に与え、帰るようにと言ふと、保名は童子を抱き上げるが)、「いやいや父には抱かれまじ。いなや母上」とどめてたべ」と取りつくを、されども保名、心強くも引き放ち、ありし所を立ち去れば、幼き者は声を上げ、「のう母上」と泣き叫ぶ。母も泣く泣く跡につき、しばしがほどは来たりしが、「もはやこれより帰るなり。やれ幼き者よ、これが今生の、別れかや(以下略)」

昔話の持ち得る叙情性にはこのように登場者の心情を言葉を尽くして描写することはない。あくまでも登場者の行為で表せられる範囲にとどまっているといえる。

4 龍宮訪問のエピソード（表5—3）

このエピソードにおいて、「由来」「物語」は助ける動物が小蛇であること、帰宅した童子が超自然的時間の経過を経験しないことなどでこの両者は共通している。一方、「連夜説教」では助ける動物が亀であること・童子が自分の着物と亀を交換すること・龍宮から戻って超自然的時間の経過を体験することなどで昔話と共通している。昔話では類型タイプ・C型に七話、このエピソードが登場する。

ところで、龍宮訪問のエピソードそのものは昔話によく表れる。代表的な話型が「浦島太郎」であることは言うに及ばない。文芸作品に龍宮訪問が登場することには、昔話世界にあたり前にあるエピソードを文芸が取り入れたという可能性が考えられる。一方、「狐女房」に限ってみるとC型の七話のうち、香川・徳島・長崎の三つの例話に「連夜説教」とよく似た状況が語られている。すなわち、童子の留守の間に家族を受けた変化、繼母の死や父の老化した様などである。このことから、文芸と口頭伝承の相互影響の可能性が考えられる。つまり、はじめに昔話世界の龍宮訪問エピソードを、狐女房譚を題材にした文芸が取り入れたとして、その後、具体的な状況を文芸界から昔話「狐女房」が受容したのではないか、ということである。

5 聞耳エピソード（表5—3）

このエピソードは『大内鑑』以外の作品に表れる。これ以降、ドウジはセイメイと名のり、成人のイメージが強くなる。セイメイが天皇の病因を知るのは、二羽のカラスの会話を聞くことによる。このモティーフは古い記述にも見られる。〔註9〕

「狐女房」以外の昔話聞耳譚では、このエピソードは話の中核をなすものである。口承世界にはあたり前に登場する。すると、前項目の龍宮訪問エピソードと同じことがいえるのではないか。どちらが先かは断定できないが、聞耳エピソードは、文芸世界から口承世界へ、またその逆をたどった可能性が考えられる。

昔話「狐女房」はC型のみにこのエピソードが表れる。C型は聞耳を得る場所によって、二つに分かれる。聞耳の呪宝を龍宮へ行つてもう1場合をC—2とし、それ以外の場合をC—1とする。C—1の中にある、呪物によらない生得の能力によって動物の言葉がわかる子どもに着目したい。彼らは、狐の子だから超能力を持つと語られており、このような語り方は文芸作品には見られないモティーフである。

五、昔話「狐女房」が受容しないエピソード・モティーフ

6 術較べ（表5—3）

このエピソードは『大内鑑』以外に表れる。セイメイの治療の成功と出世を妬む道満が術較べを挑む。術の内容は容器の中にあるも

のを当てることが多い。とくに道満が言い当たる柑子をセイマイがねずみに変えて勝つというモティーフはどの作品にも共通している。このエピソードは、昔話では、C型に四割表れ、特に「柑子とねずみ」モティーフが目だつ。

7 セイマイの修行（表5—3）

このエピソードは『信太妻』『大内鑑』以外の作品に表れる。セイマイは唐へ渡り、伯道のもとで修行し、三つの戒めを受ける。昔話「狐女房」にはこのエピソードは表れない。

8 道満と妻の裏切り（表5—3）

このエピソードは『信太妻』『大内鑑』以外の作品に表れる。秘蔵の書物を妻の手引きで書き写し、夢で相伝したと偽った道満がその存在を賭けてセイマイを殺すのは、『由来』『物語』である。このエピソードは昔話「狐女房」には表れない。

9 死と蘇生のエピソード・10道満改心のエピソード（表5—3）

前エピソードで道満と書物をめぐって賭けをするモティーフのない『信太妻』『連夜説教』では、道満が一條橋の上でセイマイを待ちふせして殺す。『信太妻』の場合、殺されるのはヤナスである。ヤナスを蘇生させるのはセイマイ自身である。『大内鑑』を除く他の作品では伯道が唐から渡ってきてセイマイを蘇させ、道満と対決してこれを討つ。道満が悪人のまま討たれ、勸善懲惡の図式を取るのは『由来』『物語』『信太妻』である。他の二作『大内鑑』『連夜説教』の道満は結末で改心し、セイマイの協力者となる。昔話「狐女房」では、C型に二割近く9のエピソードが表れる。また、

『信太妻』と同じくヤスナが殺されるモティーフが少なからず表れる。道満が改心するという例話は、現在のところ、昔話には表れていない。

ヤスナとドウジが狐女房と別れた後の物語は、昔話「狐女房」のC型以外のタイプでは非常に伝承が薄い。特に、7～10のエピソードはセイマイ伝承と密接な関連があるにもかかわらず、「狐女房」全体の中では伝承されていない。「狐女房」以外の話型、例えば「清明と賭け」ではこれらのエピソードが語られる。
（註）

なぜ昔話「狐女房」にはこれらが表れないのかと考えると、次の三つのことがいえよう。一つには、主人公のイメージが文芸作品と昔話では異なっているためである。文芸作品の中では、童子丸は成長し、アベセイマイという成人として活躍する。昔話のドウジマルは少年の姿で語られ、結婚する事もない。それで、妻梨花と道満が通じて清明を裏切るというエピソードは受容しないのではないかと思われる。二つ目に、セイマイ修行のエピソード以降は、舞台は唐に移り、空間的にも時間的にもスケールが広がる。昔話は発端で、仲磨や吉備公のエピソードをほとんど受容していないことと合わせると、昔話「狐女房」は時間的・空間的に広大なスケール感を持たないといえる。三つ目に、道満が改心して善人になるという設定を昔話が受け入れないのは、昔話はくつきりした対比を好み、まっすぐな線のような明確な筋を追っていく性質があるので、敵対者の人物像の変容は起こりにくいためだと思われる。

六、まとめ

昔話「狐女房」に表われる文芸の影響は、話の表層を覆う要素と韻律のある文言に顕著に見られる。エピソードの配列やモティーフの設定にも文芸作品の投影が伺われる。芝居となつた作品から受けた視覚的な記憶が、語りに具体的な描写をもたらしている面も考えられる。しかし、要素、モティーフ構成、エピソードの配列、それらの全てを完全に文芸と一致した形で受容することは非常にまれである。要素は昔話世界に一般的なものに近づこうとし、文芸の投影と思われるモティーフやエピソードの設定も、登場者や背景の内容は昔話的な転化を起こしている。また、文芸的な側面とは異なる、昔話の独自な展開も見られる。昔話「狐女房」は、時間的・空間的に広大なスケール感を持たず、過剰な情緒性や人物像の転換も受容しない。昔話「狐女房」は、セイメイの偉大な人生を語るのではない。昔話「狐女房」と人間の出会いと別れ、さらに、少年ドウジマルの冒險物語に変容しているといえる。芝居や語り物の感動的なこの物語が口承に写されたことは想像にかたくないが、五〇年、百年という時間的なスパンでみると、口承独自の変容が生れる。その点にこそ、昔話が昔話たりうる理由があるのではないか。大変比喩的な表現を用いれば、「狐女房」のように文芸作品からの影響を受け続けていふ話型であつても、口で語り、耳で聞くという伝承のあり方ゆえに、昔話が自ら昔話世界を逸脱しない力を持っているのだといえる。

【註】

- ①『日本昔話事典』（弘文堂）『日本昔話小辞典』（みずうみ書房）等の「狐女房」の項目参照。
- ②表1に示したように、狐女房譚を題材とする作品は数多くあり、ここに取り上げる五作品に見られるエピソード・モティーフ・要素が昔話「狐女房」と共通する全てだとはいえない。従つて、この五作品はあくまでもモデルに過ぎない。だが、先行研究の成果からも、また、実際に昔話との関連も密接であることから、この五つに限つての比較も無意味ではないと思う。また、「作品」というくくり方も議論の余地があるが、不特定多数の伝承ではなく、氏名は不明だとしても、作者がいるという意味で「作品」とした。
- ③小澤俊夫／「モティーフ論」（口承文芸研究第九号）参照。
- ④「女房は狐」という話型は、目前の二人女房モティーフを含み、狐は害をなす妖怪的存在として語られる。また、「狐女房」の非類型タイプの中にも二話ほど妖怪的な狐が登場する。数量的にはまとまらない話型の中に、今昔物語に類似する女に化ける狐がみえる。
- ⑤『日本昔話通観』（秋田）92「狐女房—一人女房型」
- ⑥『聴く語る創る』（日本民話の会／創刊号）「葛の葉子別れ」
- ⑦三世中村梅玉（談）「葛の葉」曲書き・他（蘆屋道満大内鑑／上演資料32／国立劇場芸能調査室編）
- ⑧『由来』は狐女房エピソードというほど成熟しておらず、話の

順序も他の作品とは異なるのだが、比較的の便宜上、同列に置く。

この『由来』では、狐女房の夫であり、童子の父親である人について具体的な言及はない。狐が遊女の姿で猫島に漂着し、「ある人」のもとに三年間滞在するとのみ語られる。

⑨『臥雲日件録』に晴明が二羽の鳥の会話を聞き、天皇の病因を除いたという記述がある。

⑩美濃部重克「『信太妻』の一源流—南島のシイミーの話とか、わって」（福田晃編／『日本昔話研究集成2／昔話の発生と伝播』名著出版）

小池淳一「陰陽道系説話の展開と位相」（口承文芸研究第十六号）

右の二論文に、この問題に関する詳細な論述がある。

付記 本稿は、平成六年度日本口承文芸学会大会において発表した草稿をもとに訂正加筆したものである。

（なかむら・ともこ／昔話研究 土曜会）

表1 狐女房譚を題材とした作品	
名称／成立・発行年代／作者・編者	
○日本靈異記 上巻第二緑／弘仁年間（八一〇～八二四）／景戒	
○笛簫抄／寛永六年～寛永十一年（一六二九年～一六三四年）	
○本朝神社考／寛永年間／林道春	
○たまも	
○木幡狐	
○安倍晴明物語／寛文二年（一六六二年）浅井了意か	
○古淨瑠璃 信太妻／延宝二年（一六七四年）／鶴屋喜右衛門・板	
○古淨瑠璃 信太妻／延宝六年（一六七八年）／山本九兵衛板	
○信田森女占方／正徳三年（一七一三年）上演／紀海音	
○芦屋道満大内鑑／享保十九年（一七三四年）初演／竹田出雲	
○兎園小説／文政八年（一八二五年）／滝沢馬琴	
○信濃奇談／文政十二年（一八二九年）／堀内元鑑	
○百家奇行伝／天保六年（一八三五年）／八島五岳	
○利根川団志／安政五年（一八五八年）赤松宗旦	
○連夜説教 安倍保名／明治三十一年（一八九七年）／三浦浦三	
○日本童話宝玉集 葛の葉狐／大正十二年（一九一三年）／楠山正雄	
△語り物／	
○越後高田ごぜ歌 葛の葉	
○尾張万歳 くすの葉	
○伊勢神楽 狐葛の葉	
○越中チヨンガレ節 あしやとまん	
○和讃 くつのは子わかれ	
○大新板やんれぶし 葛の葉子別れくどき	
○盆踊り歌	

五 作 品 の 内 容 比 較

表 2 - 1

類	日	"三国用真鑑金烏王毛集の由来"	"安吉御物語一代記"	"留大妻" (じゆだいよ) おはな (留御生)	"芦屋御内鑑"	通説説義 "安吉原名"	
『品文』・ヤンル 元江時代 桂枝年 作者	居店の起云書 鎌倉末・鎌町中期か (1)1629~1634年 寛永~正保年間 (2)1627~1647年 漢文体	臣名草子 鎌倉末・鎌町中期か 金烏毛集 天竺・唐・日本 約400年間	古御脚観 1674年 延宝2年 (葛屋喜右衛門刊)	角端録 1674年 延宝2年 (葛屋喜右衛門刊)	角端録 1734年 宝昇19年 竹田山雲	佐藤講話 1894~1897年 明治27~30年 三浦由三編	
『聖訓解釈』 著者 時局と長さ 研究と通じ ソーヴ 家族	聖訓解釈 近時の大久 出立をめぐる エビシニア 名前と袋刷 の競争者 エビソ ト 金烏毛集 天竺・唐・日本 約200年間	金烏毛集 天竺・唐・日本 約200年間	日本 20年未満 貴望内伝・金烏王毛集	日本 5~6年 貴望内伝・金烏王毛集	唐・日本 約200年 金烏王毛集	唐・日本 約200年 金烏王毛集	
筋話と序り 入唐の理由 敬意者 試験者 臣の後助者 ソーヴ 筋話と序り	筋話と序り 入唐の理由 吉備 敬意者 試験者 臣の後助者 ソーヴ 筋話と序り	仲丸が居らないので 武帝 如意を承される 1 朝庭・慧當と対局 2 文選を読む 3 野菜の名を読む 赤兎 (仲丸) 1、慧當と表の手合わせ 2、武帝が図のを開か 長谷親翁の援助 3、こそとなつて糸を引 武帝に年を代え、七つの宝を得る に金烏毛集がある。相應するが、武帝は そくしてやる。生前の命の法で80才に 福島 (筑波)	仲馬が居らないので 太宗帝 如意を承られる 1 朝庭・慧當と対局 2 文選を読む 3 野菜の名を読む 鬼 (仲馬) 1、慧當と表の手合わせ 2、文選を読むのを開か 長谷親翁の援助 3、こそとなつて糸を引 太宗に3年位生き、七つの宝を得る に太宗の内傳があり、前編の有り仲馬は 上等で、当時の法で80才で死んで、 七つを手を括かして後法を助けよとい 高麗の國賤田の安倍野 百介家	仲馬が居らないので 太宗帝 如意を承られる 1 朝庭・慧當と対局 2 文選を読むのを開か 鬼 (仲馬) 1、慧當と表の手合わせ 2、文選を読むのを開か 3、こそとなつて糸を引 太宗に3年位生き、七つの宝を得る に太宗の内傳があり、前編の有り仲馬は 上等で、当時の法で80才で死んで、 七つを手を括かして後法を助けよとい 高麗の國賤田の安倍野 百介家	角端録 千五百年前の五の紀より 伯道、文選から書物を相伝する 安部仲丸・若年の遺稿便 (梁)の武帝 貧物が少ないので殺される 赤兎となり、苦をなす 辯に從わないで殺される、罪世の切兎となり、苦をなす	角端録 千五百年前の五の紀より 伯道、文選から書物を相伝する 仲馬・遺稿便 玄宗帝 辯に從わないで殺される、罪世の切兎となり、苦をなす	角端録 千五百年前の五の紀より 伯道、文選から書物を相伝する 仲馬・遺稿便 玄宗帝 辯に從わないで殺される、罪世の切兎となり、苦をなす
寿命 身分 物の相伝 吉備の子孫 筋話と序り	寿命 身分 物の相伝 吉備の子孫 筋話と序り	仲馬から7代後、安部郡司 武士階級 その家に代々伝わっている	金烏毛集 その家に代々伝わっている	金烏毛集 その家に代々伝わっている	金烏毛集 その家に代々伝わっている	金烏毛集 その家に代々伝わっている	

五作品の内容比較

表2 -

五 作 品 の 内 容 比 較

表 2 - 3

項 目	『三国相伝重金鳥玉毛紙之由来』	『安吉御物語一代記』	『高麗道場内蔵』	通説教「安信原名」
王子と草薙人	父千二人暮らし	父子二人暮らし	父子二人暮らし	父子二人暮らし
姫	黒島神社に、00日卯申り、99日に子	一人で佐吉ちへ行くのであるのにあり	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
朝	黒島が脇をくじいてゐるにあり	子仲達が勤めぬてしめてゐるにあり	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
御	小舟の化身	小舟の化身	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
御の正体	貢い斐って逃がす	貢い斐って逃がす	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
御	美女	美女	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
御	四寸の石ひとつをもらえ	四寸の石ひとつをもらえ	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
ノ	もらうもの	もらうもの	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
ノ	おのの脚の係り	おのの脚の係り	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
ト	超自然時間の超過	超自然時間の超過	父千人間はモロと四人で御住む。父の少	父千人間はモロと四人で御住む。父の少
捕活				
名のり	鷲毛のりの契機	鷲毛のりの契機	鷲毛のりの契機	鷲毛のりの契機
耳	鳥かいの場所	鳥かいの場所	鳥かいの場所	鳥かいの場所
ニ	報道官の理由	報道官の理由	報道官の理由	報道官の理由
上音する人	上音する人	上音する人	上音する人	上音する人
ビ	音（おと）（才氣を示すため）	音（おと）（才氣を示すため）	音（おと）（才氣を示すため）	音（おと）（才氣を示すため）
ノ	立音	立音	立音	立音
シ	能音ストレートをもつてること	能音ストレートをもつてること	能音ストレートをもつてること	能音ストレートをもつてること
内音を当てること	内音を当てること	内音を当てること	内音を当てること	内音を当てること
音の成功の詮解	音の成功の詮解	音の成功の詮解	音の成功の詮解	音の成功の詮解
最音者（生田）	通説（黒島）の理明と知悉較べての上音名音を子知してゐるので、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位	通説（黒島）の理明と知悉較べての上音名音を子知してのて、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位	通説（黒島）の理明と知悉較べての上音名音を子知してのて、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位	通説（黒島）の理明と知悉較べての上音名音を子知してのて、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位
セイノイの子守	名音を地せば、音を子知してゐるので、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位	名音を地せば、音を子知してのて、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位	名音を地せば、音を子知してのて、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位	名音を地せば、音を子知してのて、通説は大抵子と本音を加持して家主とし、清明の名と五位
歌	①長持ちの大根子、6個になる掛け語	①長持ちの大根子、6個になる掛け語	①長持ちの大根子、6個になる掛け語	①長持ちの大根子、6個になる掛け語
歌	②通説（大根子）6個に要る	②通説（大根子）6個に要る	②通説（大根子）6個に要る	②通説（大根子）6個に要る
歌	③通説（子鼠を6匹に要る）	③通説（子鼠を6匹に要る）	③通説（子鼠を6匹に要る）	③通説（子鼠を6匹に要る）
歌	（古い、そこないだと思われる）	（古い、そこないだと思われる）	（古い、そこないだと思われる）	（古い、そこないだと思われる）
歌	通説の弟子になって、御明の家に住む	通説の弟子にならが、怒りと恨みで謎路を	通説の弟子にならが、怒りと恨みで謎路を	通説の弟子にならが、怒りと恨みで謎路を
歌	玉藻の崩キビード（大御物の由来／玉藻の崩キビード（大御物の由来／	玉藻の崩キビード（大御物の由来／	玉藻の崩キビード（大御物の由来／	玉藻の崩キビード（大御物の由来／
歌	捕活 ほか	捕活 ほか	捕活 ほか	捕活 ほか

五作品の内容比較

表2-4

表3 昔話「狐女房」の構成

総話数 253話		
類型タイプ 199話	田植型 36話	非類型タイプ 18話
I 人間と動物の出会い	I 人間と動物の出会い	ここにたてた項目では筋を追うことのできない話
II 人間と動物の結婚	II 人間と動物の結婚	また、構成は同じでも各要素が特異で、狭い地域の伝説として定着している話
III 動物嫁の正体露見と別離	III 動物嫁の正体露見と別離	
IV 動物界への訪問	IV 動物界への訪問	
V 主人公Ⅱの成長と能力	V 動物嫁の豊作への援助	
VI 主人公Ⅱの龍宮訪問	VI 特異な豊作または家の繁栄	
VII 都上り		
VIII 試練		
IX 反撃		
X 結末 ①主人公の栄光 ②その他の結末		

表4 昔話「狐女房」の類型タイプの構成と分布数

総話数 199話				
A型	B型	C型	分布数	
I 人間と動物の出会い	I 人間と動物の出会い	I 人間と動物の出会い		
II 人間と動物の結婚	II 人間と動物の結婚	II 人間と動物の結婚		
III 動物嫁の正体露見と別離	III 動物嫁の正体露見と別離	III 動物嫁の正体露見と別離		
	IV 動物界への訪問	IV 動物界への訪問		
地区	A型	B型	C型	合計
東北	17	29	14	60
中部	14	19	7	40
北陸	6	2	—	8
関東(北関東含)	15	2	4	21
東海	2	—	—	2
近畿	7	4	1	12
中国	7	13	4	24
四国	3	2	6	11
九州・沖縄	14	2	5	21
合計	85話(43%)	73話(37%)	41話(20%)	199話

昔話「狐女房」主要な要素等の比較

表 5 - 1

項目	類型 タイプ			田植型	非類型 タイプ
	A型	B型	C型		
1固有名詞 アベヤスナ	3.5% 【ヤスヒロ ヤスナガ セイメイ】 (タノブ シロハエ)	3.9% 【ヤスダ ヤスツナ ヤスナリ セイメイ】 (タコサク フタマカワノモリヤムスコ)	6.5% 【ヤスマ ヤスタガ ヤスナリ ヤスペなど】	(リウエキン ロフベエ タネトウスケ)	(タカオカハチロウエモン オナバケム ラチウゴロウ クリヤマカザエモ ン ゴトウゲンノジョウ クワオリノ ショウキチ)
クズノハ	1.1%	2.6% 【クズノハ アビセドノ タマゴノ (オサン) マニ】	2.6% 【クズノハヒメ】		【タマゴノマイ】
ドウジマル	2.3% 【ドウジュマル ジドウマル アベセ セイメイ クズノハ】(オキバナル)	3.7% 【ドウジュマル ドジマル ドンツク アビセドノ アベセイメイ アベ サギタウ】(ニヨウシグレ ムラサ メオヌキ ヨリヨシ オウメ コヤナギ コサクロウ)	7.5% 【ドンズマル ドジマル ドウジマ ル アベドウジ】(コバナマル サン キチ)	【ドウジマル タマタロウ】 【キンシムサラ トサジ テンズキホ ウシ ショテンコ ングレ ムラサメユ キコ テッテコ ウジ モリメエンズ)	(コウシ コウダイ シゴネン ムラ サキ)
イシカワ アクエモン		7% 【イシカワゴエモン イシカワフキヒラ】			
ドウマン			2.7% 【ドウマン アシヤドウマン オニハド マン】(辰春・占い部・八卦見・戀人・船)		
2主人公の身分職業 文芸的	2.8% 【侍・石船・家老・先生・医者・名のある者】	2.8% 【侍・公家・殿・医者・旦那・侍い人】	5.8% 【キシムサラ トサジ テンズキホ ウシ ショテンコ ングレ ムラサメユ キコ テッテコ ウジ モリメエンズ】	2% 【菜農の息子】	【武士・庄屋】
芸能的	4.4% 【男・別師・百姓・炭焼き・木こり・漁師】 (商人・船)	2.3% 【男・別師・百姓・炭焼き・木こり・漁師】 (商人・船)	2.1% 【男・娘・百姓・炭焼き・別師・娘】	9.8% 【男・百姓・炭焼き・別師・娘】	【商人・百姓・別師・漁師】
3婚嫁の理由	報恩 6.4%	6.1%	8.5%	1.6%	2.2%
	来訪 3.1% 【願望への応答・見込む】	3.6% 【願望への応答・見込む・仕返し】	7%	7.7% 【目前の二人女房 11%】	4.4% 【目前の二人女房 5%】 3.3種生物を返す・すでに妻がいる】
4狩の理由 文芸的	生き肝 1%	4%	9%		
	差しみ 8%		9%		
芸能的	生計 1.4%	6%	7%		
	退治 8%	5%	12%		
5子ども	男子一人 3.0%	4.9%	1.00%	3.0%	0%
	子供一人 4.8%	3.8%		2.5%	2.2%
	女子一人 4%	2%		8%	0%
	複数のきょうだい 8%	8%		2.5%	2.7%
	生まれない 8%	1%		11%	5.0%
6子供の成長後 セイメイのイメージ	1.5% 【易者・八封見・天文学者・偉大な人】	3.5% 【易者・八封見・天文学者】	1.9% 【易者・陰陽師】		
長者/金持ち	1%	2%	1.9%	2%	
出世	1% 【父】 (大変力持ちになる女子 1話)	4% 【侍・大僧正・若衆】	1.9% 【侍・王】	(代々女に副乳がある 1話)	
7正体露覗見の契機 油断(尾や頭顔を出す)	3.7% 【隠れ・寝ている時・隠れり・寝孔】 (隠食・寝足・足跡・油断・毛の生えた子 など)	3.2% 【寝ている時・授乳・搾乳・隠れり】 (隠・食足・物思い)	5.3% 【寝ている時・搾乳・隠れり・授乳】 (毛だらけの耳・鏡・母)	6.3% 【寝ている時・搾乳・遊び・身体の動き】 (毛だらけの耳・鏡・母)	4.4% 【寝ている時】 (男女) 5% 【大】
本妻・姫約束の訪問	1.3%	1.7%	2.9%	0%	
告知	2.0%	1.3%	7%	8%	
タブー違反	4%	2%	0%		5%
8模擬歌・文言 恋しきは	4.8%	5.9%	5.3%	1.1%	5% 【みどりごの母はと聞けば 女化け】
とんぼを食するな	2.4%	1.7%	9%	6.1% 【時に出いでつぱらみ】	
隣子に書く	1.8%	1.7%	2.6%		
口に筆くわえて書く	1.1%	9%	5%		
書置	7%	2.3%	2.4%		
歌など残さない	2.9%	1.6%	2.6%		

昔話「狐女房」類型タイプのモチーフ・エピソード

表5-2

項目	類型タイプ		
	A型	B型	C型
1仲磨のエピソード	なし	なし	C 1/25 広島1 ・アベイクスガは中国留学から帰国し、信太産を通り掛かると、追われた狐が助けを求めるので、こおりの中に隠して助ける C 1/31 佐賀1 ・安佐仲磨は中国に行き、皇帝に引き止められて帰国できず、和歌を詠んで故国を祀る。アベイクスガは仲磨の子孫で、ざん言されて役満するが、家を再興しようと辛抱する
2吉備大臣のエピソード	なし	なし	なし
3保名のエピソード ①狐を匿した保名が彼を被る試験	なし	なし	C - 1 7 山形1 村人に責められ、けが → 観音狐 8 山形2 河内と御田因 9 山形3 加賀と脚り、捕因 → 和尚狐 10 山形4 犬の家来に捕因 → 和尚狐 11 山形5 ねね方に御田いばん和尚狐 12 山形6 お手に段られ、けが 13 山形7 犬人と言い合ひ 14 山形8 犬人と言い合ひ 15 山形9 犬人と言い合ひ 16 山形10 犬人と言い合ひ 17 山形11 犬人と言い合ひ 18 山形12 村人と言い合ひ 19 墓主1 犬人と言い合ひ 20 墓主2 犬人と言い合ひ 21 墓主3 犬人と言い合ひ 22 墓主4 犬人と言い合ひ 23 墓主5 犬人と言い合ひ 24 墓主6 犬人と言い合ひ 25 墓主7 犬人と言い合ひ 26 墓主8 犬人と言い合ひ 27 墓主9 犬人と言い合ひ 28 墓主10 犬人と言い合ひ 29 墓主11 犬人と言い合ひ 30 墓主12 犬人と言い合ひ 31 佐賀1 さんそされ、没落 32 佐賀2 流刑 33 佐賀3 流刑 34 長崎1 さんそされ、國払い (*の話では、ヤスナは百姓・頭領) (*の話では、ヤスナは百姓・頭領)
②狐女房と保名子の別れ	「試別の通告～わざと狐に変身する」 3% 22 新潟5 (わざと狐に変身する例) 「おれ、これから帰るだけに」って いって、そういうて、その白狐のぼ うぼうとそののをば見せて、そして その子が帰めて、そういうてあられた といふ話を聞いた。	「元の姿になれと要請する」 1.6% 「授乳する」 3.8% 「試別の通告～わざと狐に変身する」 1.7% 【狐女房の意志】 6 【父親の意志】 4 「試別の通告一言葉で告げる」 1.2% 「試別の通告～狐空て現れ、何も 言わない」 1.0%	「元の姿になれと要請する」 1.7% 「授乳する」 1.7% 「試別の通告～わざと狐に変身する」 1.4% 【狐女房の意志】 6 【父親の意志】 4 「試別の通告一言葉で告げる」 8% 「試別の通告～狐の姿で現れ、何も 言わない」 3%
・父子の呼びかけに狐女房が応じないので、保名は童子とともに自害すると、狐が現れる。童子が悔がるので、保名は人間の姿になれて要請する。狐女房が童子に形見の竜王の符と水晶を与えて、保名が童子を天下第一の者に育てる約束して帰らうとする。童子が泣き声よみで狐女房は、幼き者よ、今生の約ねだる。というなり童子に変身して嘆き悲む。(吉太妻)	秋田1(夫の要請で人間になる)「授乳する例」 童子丸は、「母のみのい」とて、あまり泣くべくために、保名は童子丸とこで信太の酒をさがつた。そして、「葛の葉や、葛の葉や、もとの姿になつて出てこい」とて、言つたけか、また、きれいな姿になつて出てきて乳飲ませて帰つた。 6 岐阜1(葛の葉瓶ではない話にわざと変身するモチーフの例) そうから、子供がお母さんで毎日泣くんだって。その二人が山へ来てね「おさんやあ」とて言つたって、そしたら、狐のお母さん人がきいいなお母さんになら化けてね、出たって、そしたら子供が言ひんで、「お母さんお母さん」で狐にすがつてねはなさんも泣って、そから、「お母さんもう帰らなければいけんけん、帰る」って言つたからね「帰れない、帰れない」ってこげてはなさんだ言つて、無理やりはないけど、そその場であつたけの狐になつてキーンキーンっててね、泣るなってお母さんが、そげしたら、子供が泣いて、もう「お母さん」つていわんけんっててね。	C-1/7 山形1 (夫の志で狐に変身する例) 【葛の葉や、今一度、俺の葛の葉なえて要現して、どうぞお母さんお母さんでござりますけじゅう。孤あ、泣き眠りねつたもので、なかなか出て来ねがつたん。はて、せはうだかんだれば、孤あどぞして、さあって出てきたじゅ。んばあ、ほんごど、孤あ、おかねえ】でえだじょも、孤あ、そまもども葛の葉の姿になつて、んばごどご抱えて、乳に、てつづれましたけじゅ。 【こだまして、何時まで目でも同じこと、母親のなりしてど、んばこ、何時までも離んたえさせて、もどの狐に出現して、んばごどご、どてきしまで、別だ方ええ】	C-1/20 茨城2 (狐女房が言葉を告げる例) こんだも童子丸がお親のいわれたとおりに信太の酒さ行つて、いろいろはなしをしたところが、「まあ、いつまでこれおまもと狐の子供だからて言つたって人間なんだから、この森からとにかく出て、いつのまはちゃんのともとされ、といわれてまお、泣きなき届っていく時に、(以下略)
・童子の呼びかけに狐女房が応じないので、葛の葉は自分に遠慮しているのだろうと隠れると、狐女房が現れて童子の乳を与える。保名と葛の葉は童子の行く末を顧むと、保名が共に帰らうといつてがりつて、狐女房は自分たちの徳とそれは出来ないと言ひながら話し、今生の別れの印と、年越の狐の姿を見表現して暮らに消える(進夜説教)	大内鑑		
・童子が、かか様恋し、乳のみたいと呼び、保名も呼ぶと、狐女房が現るので、保名がもう少し家にいてくれというと、狐女房は自分たちの徳とそれは出来ないと言ひながら話し、今生の別れの印と、年越の狐の姿を見表現して暮らに消える(進夜説教)			

昔話「狐女房」類型タイプのモチティーフ・エピソード

表5-3

項目	類型タイプ		
	A型	B型	C型
4龍宮訪問エピソード ①『由来』 鹿島神社に参拝 小蛇を貰い取って逃がす 龍宮で石鏡と島主を得る 超自然的時間の経過なし ②『物語』 住吉参りに行く 小蛇を貰い取って逃がす 龍宮で金の箱と青丸 超自然的時間の経過なし ③『蓮夜説教』 住吉参りの帰途、男の戻へ 亀を荷れ差しと交換で逃がす 龍宮で龍仙丸を得る 超自然的時間の経過 ・景色の変化 ・童子が死んだと思い、御神は悲しんで死ぬ ・祖父は老病死 ・父は年老いている	なし	なし	C-2/7話 (狐女房譚253話中、2%) 1 青森1 亀／着物と交換／葉 10年経過 2 青森2 亀・とんぼ／貰い取る／聞耳 3年の出来事 3 新潟1 亀／聞耳・制止させる物 3年忌 4 群馬1 亀／このモティーフをきっかけとして「浦島太郎」へ転換 5 香川1 亀／貰い取り・着物と交換 三つ玉／時間の経過 ・母の死・父の重病 6 徳島1 白亀／聞耳・五手箱・虎の巣 3年経過・泣き散らす父 7 長崎1 亀／着物と交換／魔王の玉 3年経過・目を泣きつぶした父
5聞耳エピソード 『大内鑑』以外の4作品 親生石エピソード 『由来』	エピソードの片りんが伺える話 (鳥語を解し、災難を救った)	3%	エピソードの片りんが伺える話 (鳥語を解し、災難を救った) (聞耳で股の病因を当て、宝生の玉で治す) C-1 C-2 聞耳エピソード 7.6% 8.5% 呪宝による聞耳 9.2% 10.0% 生得の能力の聞耳 8% 親生石エピソード 11.1%
6術較べエピソード 『大内鑑』以外の4作品	なし	エピソードの片りんが伺える話	1% 4.4%
7セイメイ修行のエピソード 『大内鑑』以外の4作品	なし	エピソードの片りんが伺える話	1% なし
8道満と妻の裏切りエピソード 『由来』、『物語』	なし	なし	なし
9死と蘇生のエピソード 『大内鑑』以外の4作品	なし	なし	1.9%
10道満の改心のエピソード 『大内鑑』、『蓮夜説教』	なし	なし	なし